

# 秋の宴「おわら風の盆」開催



はじめに、当協会顧問の富山県議会議員宮本光明氏による県政報告会が開催された。

近年全国各地で災害が増えていることから、当協会が普及促進している災害時用井戸の必要性について、普及に向けた地域での課題についてお話しいただきました。

また、第5世代移動通信システム（5G）が来年サービスを開始されるにあたり、遠隔のコミュニケーションが増え、仕事や医療で地方に行きながら様々なサービスを受けることができるようになることのご説明と、普及に向けての取り組みについてお話しいただきました。

## 県政報告会

富山県鑿井協会秋の宴「おわら風の盆」を令和元年九月三日（火）八尾町 吉田屋にて開催した。県議会議員 山本徹氏にご臨席を賜り、会員、賛助会員計三十三名の参加があり、互いの親睦を深めた。

# Eco リード

Vol. 40

【発行】令和元年10月  
富山県鑿井協会  
〒930-0955 富山市天正寺1085 フィオーレ201号  
☎(076)421-5225  
Fax(076)421-5226  
http://www.iido.jp  
E-mail: tomisaku@iido.jp

## 懇親会

懇親会では八尾町福島のおわら保存会の皆様に越中おわら節を披露していただきました。また、アレマー玉井氏によるマジックショーや賛助会員による企業アピールなど、楽しく有意義な会となりました。

終了後はおわら風の盆開催中の町に出て、唄と踊りをさらに堪能し、参加者の親睦を深めました。



## T S A G杯ゴルフコンペ

翌日の九月四日（水）太閤山カントリークラブにて第十七回T S A G杯ゴルフコンペを開催した。18名（6組）が親睦を深めながら、ゴルフを楽しみました。

優勝 土合拓也（株日東）  
準優勝 水道正明（株山田商会）  
3位 池端元彦（株ビーイング）

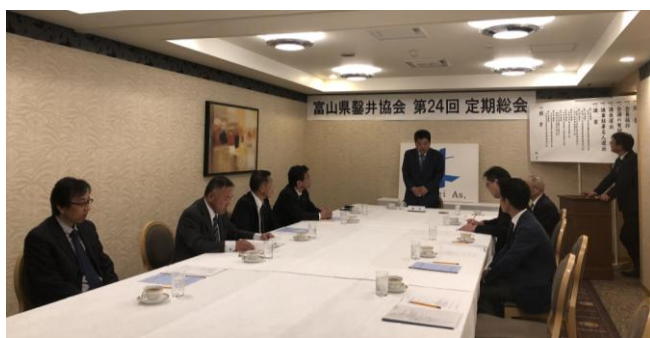


# 富山県鑿井協会 第24回定期総会開催

富山県鑿井協会第二十四回定期総会を令和元年五月十四日（火）午後三時より富山第一ホテル橋の間で開催した。八件の議案について審議が行われ、原案通り議決承認された。

役員改選では、土合会長が再任し、賛助会員に富山テレビ放送株式会社 代表取締役社長 中西修氏、副会長に株式会社ミサキ代表取締役 岬勝広氏が就任した。なお、六社の入退会が承認され、正会員十社、賛助会員三十四社となった。

今年度の事業計画は、災害用井戸のガイドライン・管理マニュアルの取り組み、富山県内の井戸設置状況の統計、井戸管理マニュアルの改訂など計八件が議決承認された。また、自由民主党富山県鑿井協会支部の収支決算報告が合わせて行われ、議決承認された。



## 講演会

総会終了後、午後四時より、日本生命保険相互会社 営業教育部 課長 松岡浩司氏による講演会『事業承継』が開催された。

一級ファイナンシャルプランナー技能士の視点から、企業経営における事業承継や保険活用についてお話いただいた。参加者三十三名はメモをとりながら大変熱心に聞いていました。講演後は質疑応答の時間もあり、大変勉強になりました。



## 令和元年度事業計画（案）

- ① かわら版の発行
- ② 危険予知強化講習会の実施（安全作業・点検及び産廃処理）
- ③ 『井戸の日』啓発活動
- ④ 災害時用井戸のガイドライン・管理マニュアルの取り組み
- ⑤ 富山県内の井戸設置状況の統計
- ⑥ 井戸管理マニュアルの改訂
- ⑦ 鑿井人の発掘と育成、管理技術者のスキル向上
- ⑧ 次世代型地下水利用への取り組み（地下水熱利用、防災利用）

## 懇親会

午後五時三十分より、富山第一ホテル ルミエールにて懇親会が開催された。

富山県議会議員宮本光明氏、富山県総合政策局 危機管理監 竹野博和氏、富山県土木部部長 水口功氏にご祝辞を頂戴し、内閣官房 副長官 参議院議員 野上浩太郎氏秘書 斎藤宗孝氏の乾杯の音頭をいただき、歓談に入った。顧問アレマー玉井氏にマジックを披露していただき、参加者四十四名が親睦を深め合った。



## 令和元年度役員

正会員		
会長	土合 拓也	株日東
専務理事	土肥 勝則	株土肥鉄工
理事	内山 祐治	内山鑿泉工業株
理事	丸田 勝文	南丸さく
賛助会員		
会長	中西 修	富山テレビ放送株
副会長	岬 勝広	株ミサキ
顧問		
宮本 光明	富山県議会議員	
アレマー玉井	富山観光プレゼンター	

## 新規賛助会員

山本工業 新潟県新潟市

# エアハンマー工法 さく井機械増設

株式会社 土肥鉄工  
 上市町旭町1066 ☎472-0642

弊社は平成元年、富山県で初めてエアハンマー工法さく井機械を導入しました。さく井工事は従来、パーカッション工法とロータリー工法で施工してきましたが、第3の工法として導入しました。

パーカッション工法は硬質な地層の掘削に弱く、ロータリー工法は工事費が高価である等、それぞれの欠点を補う工法です。但し、エアハンマー工法は井戸口径が200A程度まで、井戸深度が50m程度迄の規模の井戸が対象となります。富山県はこの程度の規模が最も多いです。

優れた点は①掘削がスピーディーであり、ほぼ1週間程度で工事が完了。②粘土泥水、ベントナイトを使用しないため井戸の仕上げ作業が容易(集水率が高い)③掘削に使う圧縮空気により水脈に到達した場合、地下水がエアリフトにより地上へ排出されるので、掘削中に水質、水量の概略がつかめる。④掘削による振動はほぼ無く、騒音は軽減されています。等です。



お陰様でタイトな工程の現場やタイトな作業スペースの現場などで30年余り御愛顧頂き、工事量が増加して参りました。お客様に着工を待って頂いたり、機械トラブルで時間を要したりご迷惑をかけることもあります。そこで現在、施工部隊2機2個班(その他 機械スペア1機)でありましたが1機増設し3機3個班の設備を整えました。



## 増設しました

- エアハンマーさく井機械:ピュアエースK1【スピンドル7.5Kw】
- コンプレッサー:PDSJ750S  
【21.2Kgf/cm<sup>2</sup> 21.2m<sup>3</sup>/min 330馬力】
- 同上運搬専用車両:大型平ボディ【8t積】
- 発電機:DCA-25US【25KVA】

## 橋開発株式会社

代表取締役 橋 正則  
 富山市二口町一丁目9番地の2



日頃は協会の方々には大変お世話になりお礼を申し上げます。

弊社は1949年創業以来、土木建築業のアール・タチバナ(株)・廃棄物処理業の橋開発(株)及びIOTカーボン(株)のタチバナグループとして時代とともに堅実の歩み続けてまいりました。

当初の土石販売業から、いち早く重機を導入し、土木建築事業、解体工事事業、運輸事業へ進出、さらに廃棄物中間処理・最終処理事業、リサイクル事業へと事業領域を拡げてきました。

そして資源循環の「環」を創り出すということで、建築廃材の再生・再資源化へと事業を発展させるとともに、新技術の研究体制を整えてまいりました。

輪廻転生とも言うべき大きな鎖のようなものを考えるとき、環境問題も資源問題も一つの「環」の中で捉えることができることを、私どもはリサイクル事業を通じて実感しております。



そして人間と地球の共生をテーマに、社会全体に貢献できる企業グループを目指し、さらに努力していきたいとおもいます。

どうかタチバナグループへの皆様のご指導、ご鞭撻を受け賜りますことを、お願い申し上げます。



株式会社エンバイオ・エンジニアリング

営業部 課長 平山 耕平

～日本一を目指して～

春に続き、私事のボディビルのお話で申し訳ございません。

日本一を目指しそれを決めるオールジャパン(全日本)大会への出場と優勝を目指しました。オールジャパン(全日本)大会に出場するには、地方大会で3位以上に成績を残す必要があります。先ず私は地元である神奈川県と地方大会の石川県大会にもエントリーしました。

### 【石川県ボディビル、オープンフィットネス大会】

開催日: 7月14日 開催場所: 石川県文化会館

地方大会と思ってエントリーしたところ、有名YouTuberや、最近世界中から注目されたしらびんさん(昨年のオールジャパン12位)が出場したことにより超大人気大会になり、出場者は昨年の3倍前売りチケットは販売当日に完売となりました。人気大会となった石川県大会は幸運なことに優勝が出来ました。2位には先に書いた世界中から注目のしらびんさん1点差と僅差の優勝です。これによりオールジャパン大会への出場権を獲得しました。

### 【神奈川県ボディビルフィットネス大会】

開催日: 8月3日 開催場所: サンピア川崎

上記でオールジャパンの出場権を得たので出なくても良かったのですが、折角の地元大会なので出場することにしました。上記の石川大会は1日だけですが、神奈川県大会は出場者も多く2日に渡っての大きな大会です。こちらはブッチギリで優勝することができました。2位の方は昨年の優勝者で昨年のオールジャパン10位の方です。

### 【オールジャパンメンズフィジーク】

開催日: 9月1日 開催場所: メルパルク大阪

石川大会、神奈川大会で優勝し、しかも昨年の12位と10位に勝っています。入賞はもちろん、優勝も狙えると思っただけの出場でした。結果は予選敗退しました。29人出場から12人への絞り込みに残ることができませんでした。トップ12に残った選手は全てプロのフィットネストレーナーで、月間に数十万円を払って別のトレーナーを雇っているようで、レベルが違いました。あまりの悔しさに目からプロテインがあふれ出ました。因みに昨年の3位も予選落ちしていました。簡単に日本一に出来ないからこそ挑戦しがいがあります。今年の挑戦は終わりますが、来年にリベンジします。

